

# 《主要施策に係る資料集》

# 子どもは地域の宝です。

学校・家庭・地域の力を結集して  
子どもを健やかに育てましょう。



## 結集！しまねの子育て協働プロジェクトのねらい

子どもの健やかな成長は県民総ての願いです。しかし、子どもを取り巻く環境は近年大きく変化し、家庭や地域の教育力の低下が課題となっています。未来を担う子どもたちを健やかに育むためには、学校、家庭及び地域住民がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で教育に取り組む体制づくりを目指す必要があります。

このため、地域住民が積極的に子どもの教育や子育て支援に関わる環境づくりを進め、学校・家庭・地域住民の連携協力を推進する各事業が有機的に連携する仕組みを作ることにより、社会全体の教育力の向上を図ります。

島根県ではこれまでも子どもや学校を核にした事業に取り組んで来ました。

子どもの健やかな成長や地域の活性化に成果を上げていますが、課題もあります。

学校支援  
地域本部事業

放課後子ども  
教室推進事業

家庭教育  
支援事業

ふるさと教育  
推進事業



どの事業も

学校・家庭・地域が連携して  
取り組む事業だから、  
一緒に話し合えるといいね。

事業の枠を超えて、  
地域の人が  
いろいろな活動に  
参加できるといいね。

事業ごとの取り組みではなく、  
地域みんなが協力して、  
継続して取り組める仕組みが  
できるといいね。

市町村の実態にあわせて  
独自に進める  
新たな仕組みづくりが必要

## 新たな仕組みづくり(地域全体で教育に取り組む体制づくり)の提案

①

### センターの 設置

情報と人材を集め、総合的に企画・調整・連絡を行う活動の拠点を設置しましょう。  
(イメージ図を右のページに示しています。)

②

### コーディネーター の配置

学校支援、放課後支援、家庭教育支援の取組を総合的に調整するコーディネーターを配置しましょう。

③

### 人材の養成と 情報の管理

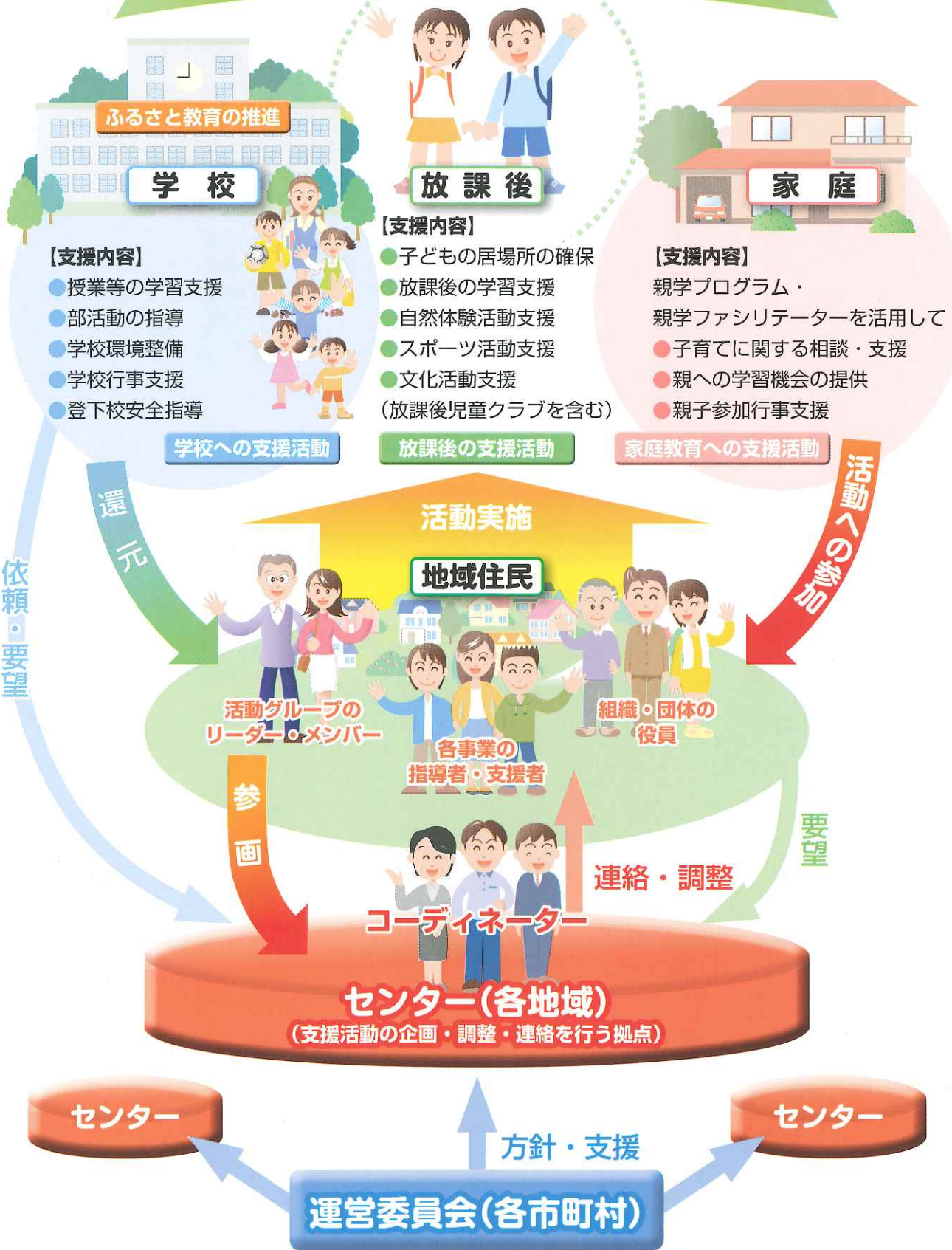
合同研修会の開催や人材バンクの一元化など、効果的に効率よく運営しましょう。

④

### 運営組織の 一本化

複数の会議を一つにまとめ、総合的に検討が進められる組織を作りましょう。

# 新たな仕組みづくりのイメージ図



センターのイメージは、学校支援地域本部をモデルにしています。公民館やボランティアセンターのほかに、学校の空き教室にセンターを設置する地域もあるでしょう。

センターには、コーディネーターが居て、学校への支援活動、放課後の支援活動、家庭教育への支援活動に関するニーズや情報を集約し、総合的にコーディネートします。

保護者や地域住民は、従来の事業ごとの活動ではなく、自分が希望する時間や内容に応じて活動することができます。

# ふるさと教育推進事業

## <子どもの現状・課題>

- ・自然体験や社会体験、生活体験の不足
- ・学習意欲、コミュニケーション能力の低下
- ・善悪の判断、規範意識の低下、思いやりの心の欠如
- ・家庭や地域の教育力の低下

## ☆学校・家庭・地域の連携協力による「ふるさと教育」推進☆

### めざす子ども像

自ら課題を見つけ、自ら学び考える子ども

学ぶ楽しさ

自らを律しつつ他人と協調し、他人を思いやる心、人権を尊重する心、美しいもの・気高いものに感動する心などを持っている子ども

豊かな人間性・社会性

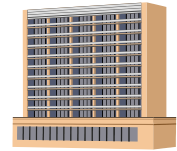
ふるさとを愛し、地域の一員として地域に貢献したり、地域を大切にしたりすることができる子ども

ふるさとへの愛着と誇り

県

#### 【市町村・各学校で展開される「ふるさと教育」への支援】

- ①市町村、各小中学校に交付金を交付
- ②小中連携して、より充実した「ふるさと教育」を進めるための教員研修を実施
- ③市町村におけるふるさと教育を中心とした推進体制構築のための働きかけや支援
- ④学校と企業等が連携して教育活動を実施するための情報提供

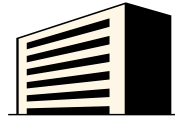


### 連携

#### 市町村

#### 【小中学校が連携した「ふるさと教育」を進めるための体制づくり】

- ①ネットワーク会議を開催し、ふるさと教育推進計画を策定
- ②中学校区ふるさと教育推進連絡会議を開催
- ③教員が地域の特色や課題について知り、考える研修を実施
- ④「結集!しまねの子育て協働プロジェクト」との有機的な連携を促進しつつ、学校の支援体制の充実
- ⑤ふるさと教育を発展・補完・深化させるため、公民館等を中心にした生涯学習・社会教育事業を実施



学校

- 【小中9年間を通した発展性・系統性のある「ふるさと教育」】
- ◎市町村立小中学校、全学級において年間35時間以上実施
  - ◎中学校区の「ふるさと教育」全体計画、一覧表の作成



#### ☆学びの発展性・系統性☆

☆ふるさとの人と触れ合い、思いを感じる。

出会う

気づく

考える

生かす

☆ふるさとに親しみ、よさを知る。

☆ふるさとの人々の思いや生き方を学んで、考えたことを学習に生かす。

☆ふるさとのために自分にできることを考えて行動する。

低学年

中学年

高学年

中学校

ふるさとを「知る」「学ぶ」「愛する」

家庭・地域

#### 【学校への理解と支援】

- ①地域の「ひと・もの・こと」の提供
- ②地域に暮らす人の思いに触れる活動への協力

支援

#### 【中学校区の「ふるさと教育」を支援する体制づくり】

- ①中学校区の学校支援体制や支援者のネットワーク化
- ②「ふるさと教育」を発展・補完・深化させるための事業の実施

還元

学校支援地域本部との連携

### 効果

子ども

豊かな心・感性の育成  
地域への誇りと愛着の醸成  
学習意欲の向上

学校

特色ある学校づくり  
地域に開かれた学校  
教員の積極的な地域への関与

地域

地域の大人の積極的関与  
地域の教育力の向上  
地域の活性化

# 小中9年間を通した発展性・系統性のある「ふるさと教育」

## A 中学校区ふるさと教育推進連絡会議

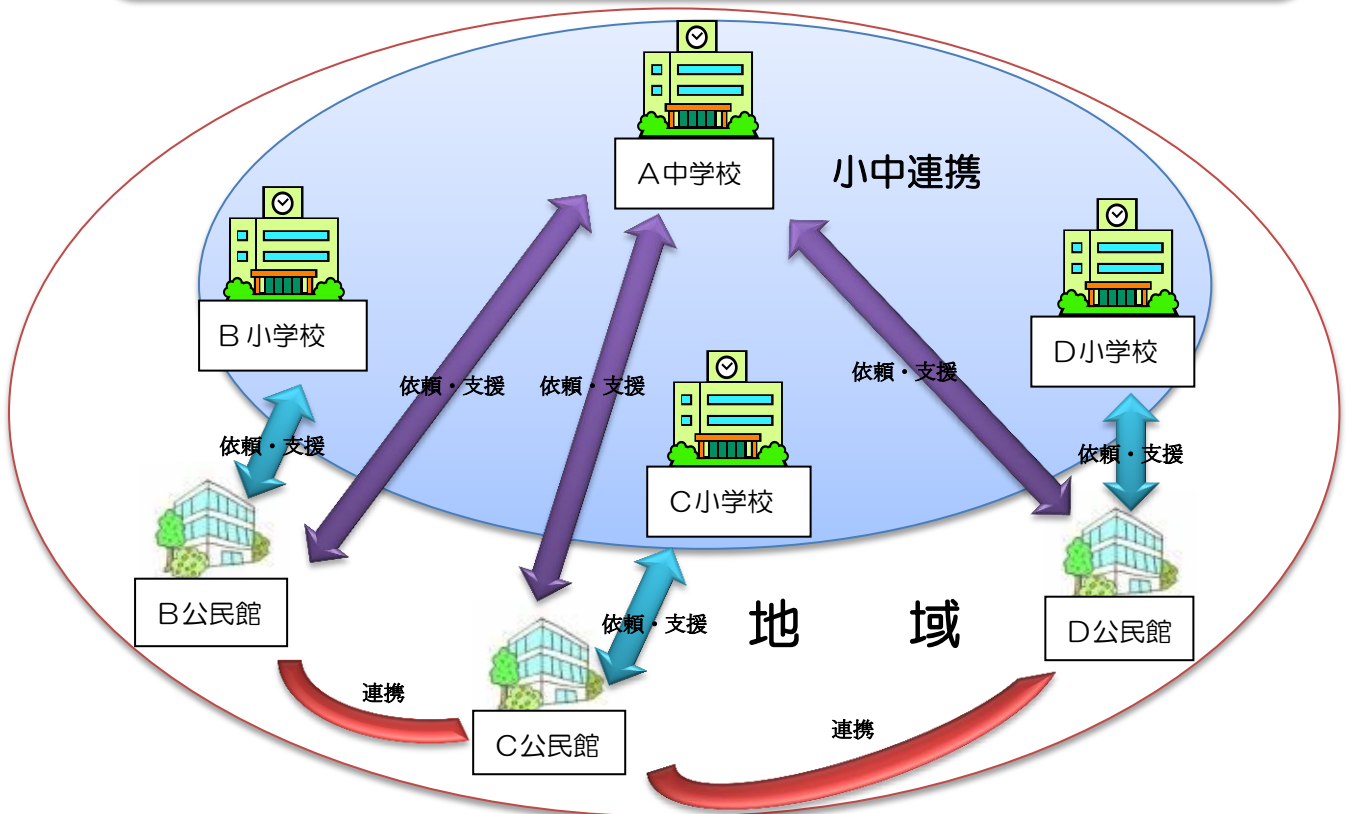
### 「ふるさと教育全体計画・一覧表」の作成

- 学習内容・取組の情報交換
  - 学習内容・取組のすり合わせ、見直し
  - 地域の教育資源の情報共有
  - 合同・一貫して取り組むテーマ・題材等の検討
  - 発展、補完、深化させる生涯学習、社会教育事業の検討
- など

### <参加者(例)>

- 教頭
- 各校ふるさと教育担当
- 学校支援 CN
- <必要に応じて>
- 公民館職員
- ボランティア代表

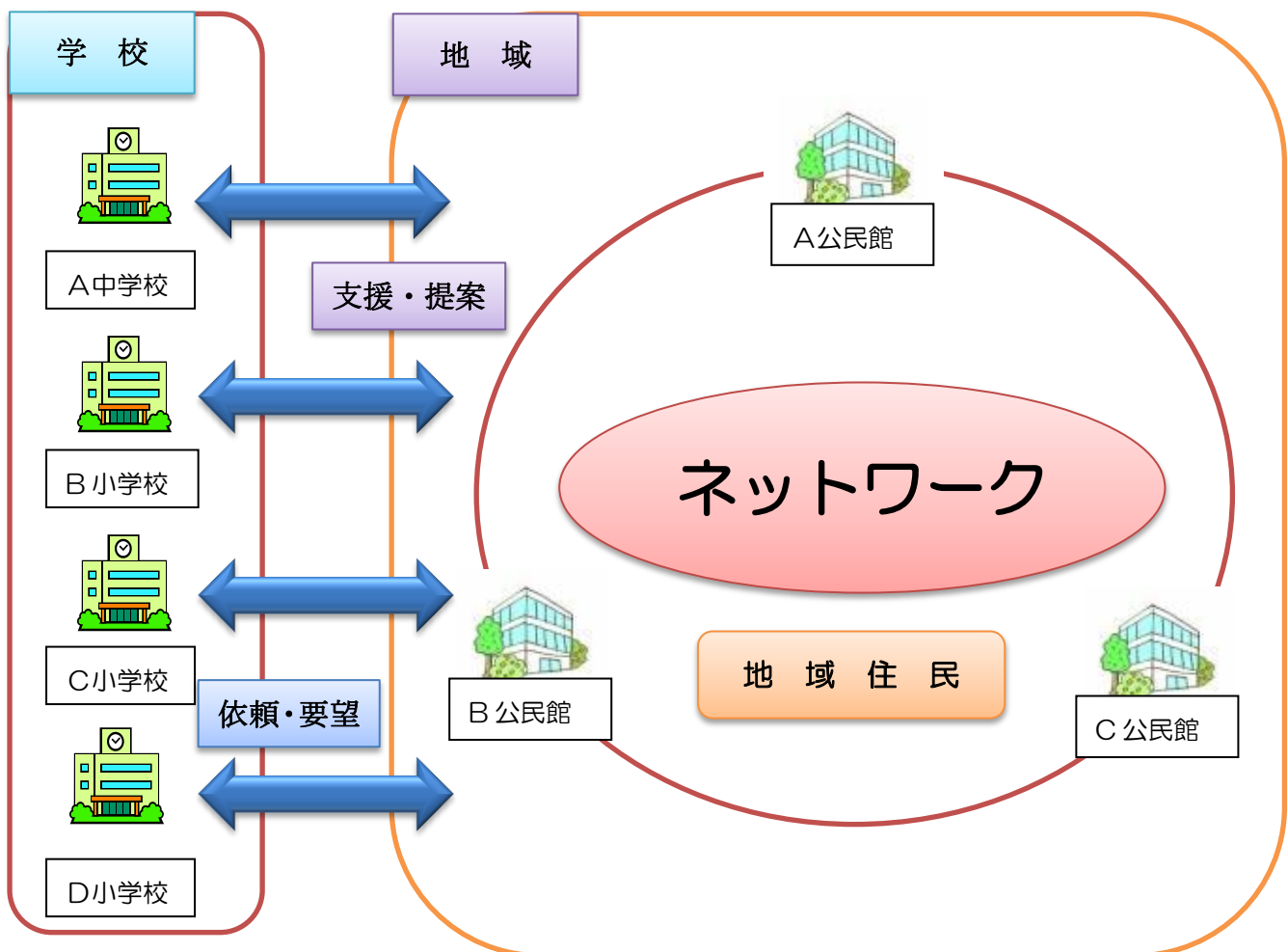
- ◎地域の教育資源「ひと・もの・こと」を活用した「ふるさと教育」を各学校において実施  
(全学級において 35 時間以上)
- ◎中学校区の全体計画・一覧表を元に小中9年間を通した系統的・発展的な「ふるさと教育」の実施 (H27～)



## 中学校区のふるさと教育を支援する地域の体制づくり

### <中学校区の学校の支援体制のネットワーク化>

- 中学校区の小中学校の学校支援担当者（公民館職員、コーディネーター等）が学校支援について話し合う場を設定
  - ①それぞれに行っている学校支援活動について情報の共有
  - ②学校支援に活用できる地域の教育資源「ひと・もの・こと」の共有
  - ③中学校区の学校支援のあり方や体制について検討
  - ④新たな人材発掘、育成
  - ⑤学校のふるさと教育を発展、補完、深化させる生涯学習、社会教育事業の検討 など



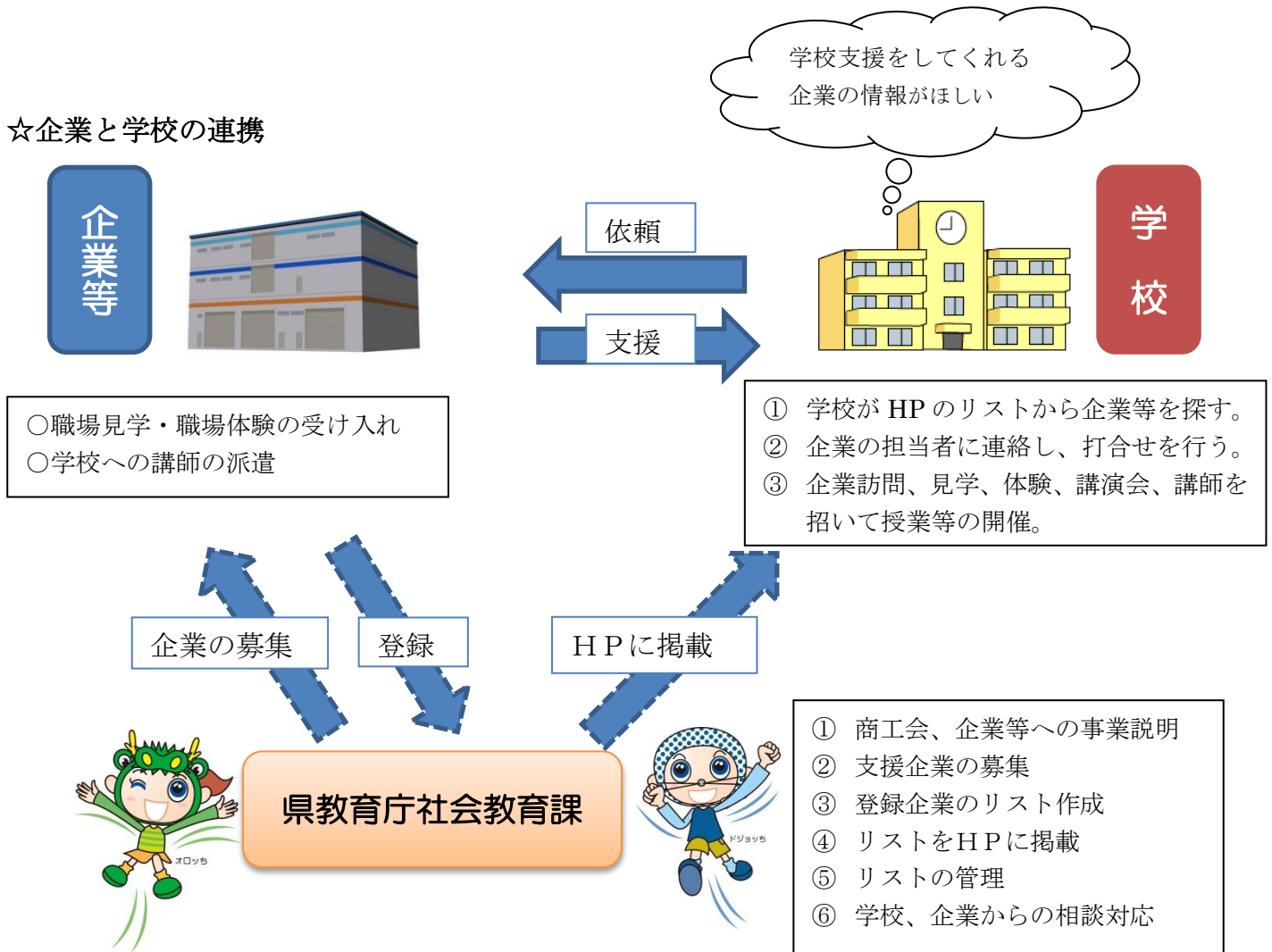
### 市町村

- 地域の実態を踏まえた中学校区ごとの学校支援体制づくりの方針
- 学校支援ボランティア人材発掘、育成の支援（研修、周知等）
- 学校支援体制の整備、支援体制のネットワークづくりへの助言・支援

# 企業等と連携した「ふるさと教育」の推進

「ふるさと教育」を支援してもらえる企業を募集して、リストを作成し、学校が企業と連携しやすい体制を整える。

## ☆企業と学校の連携



## 期待される効果

### <企業等>

- ☆次世代を担う人材の育成、
- ☆社員、会社全体のモチベーションがアップ
- ☆企業イメージ、知名度の上昇、地域貢献
- ☆若者の意識把握

### <学 校>

- ☆学習の幅が広がり、学習活動が充実する。
- ☆より専門的な知識、技能に触れることができる。
- ☆夢が広がり、将来への展望が持てるようになる。

地域全体で子どもを育む機運の高まり

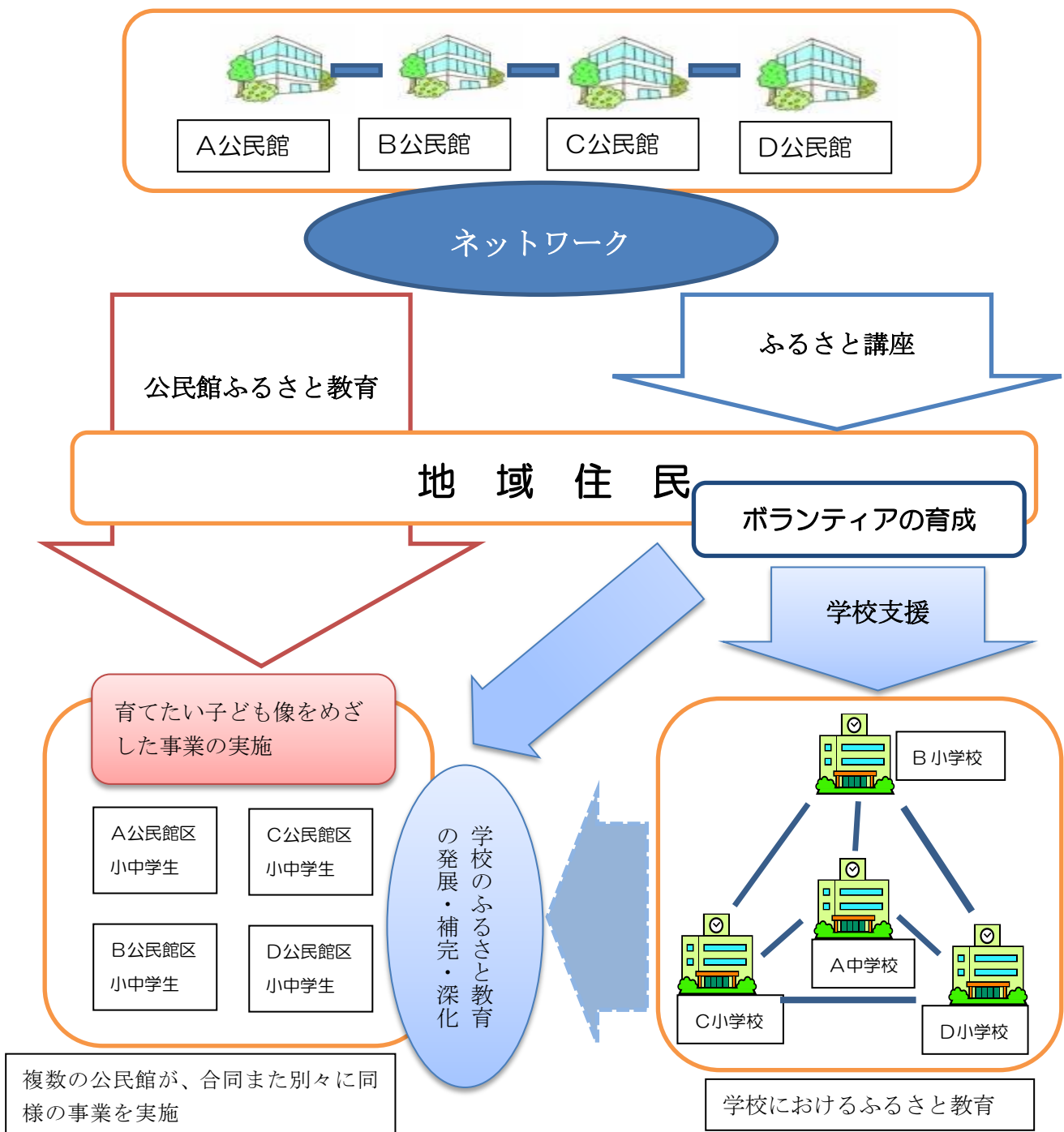
# 公民館ふるさと教育推進モデル事業

## (1) 中学校区で育てたい子ども像を共有して、公民館ふるさと教育を実施

- 学校のふるさと教育を発展、補完、深化させる生涯学習、社会教育事業を実施する。
- 子どもたちに伝えたい地域のよさや体験させたいこと、考えてもらいたい地域課題などを検討し、それらをテーマ・題材した事業を実施したり、学校に提案したりする。

## (2) 地域住民を対象としたふるさと講座を実施

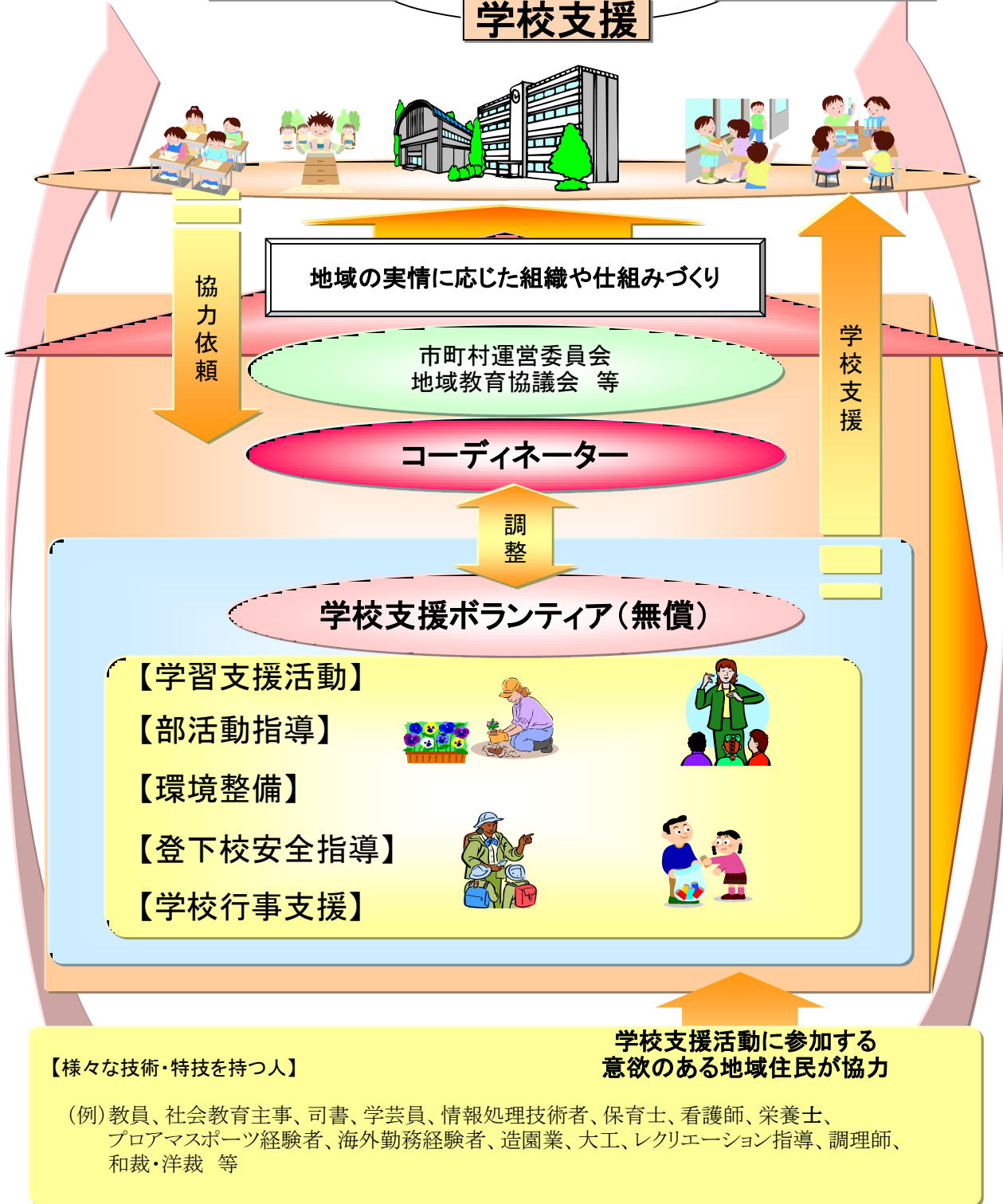
- 地域住民を対象としたふるさと講座を実施し、公民館ふるさと教育ボランティア、学校支援ボランティアを育成する。





# 学校支援

## 結集！しまねの子育て協働プロジェクト

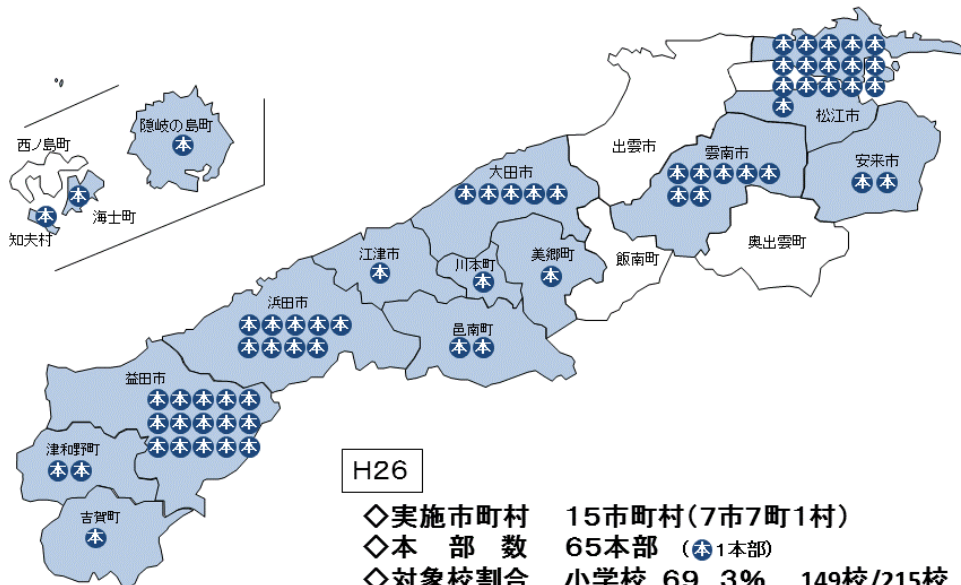


社会教育で学んだ成果を生かす場に  
子どもと向き合う時間の拡充  
地域の教育力の向上

【様々な技術・特技を持つ人】  
学校支援活動に参加する意欲のある地域住民が協力

(例) 教員、社会教育主事、司書、学芸員、情報処理技術者、保育士、看護師、栄養士、プロアマスポーツ経験者、海外勤務経験者、造園業、大工、レクリエーション指導、調理師、和裁・洋裁 等

# 平成26年度 学校支援事業実施予定



H26

- ◇実施市町村 15市町村(7市7町1村)
- ◇本部数 65本部 (本1本部)
- ◇対象校割合 小学校 69.3% 149校/215校  
中学校 68.7% 68校/ 99校
- ◇補助事業活用

## 学校支援事業（学校支援地域本部） 市町村別実施状況

(平成26年3月)

	市町村名	事業実施		学校支援地域本部数		対象学校数			
		H25	H26	H25	H26	中学校		小学校	
						H25	H26	H25	H26
1	松江市	○	○	16	16	17	17	35	35
2	安来市	○	○	1	2	1	2	4	8
3	出雲市			0	0	0	0	0	0
4	雲南市	○	○	7	7	0	0	18	16
5	奥出雲町			0	0	0	0	0	0
6	飯南町			0	0	0	0	0	0
7	浜田市	○	○	9	9	9	9	20	18
8	大田市	○	○	5	5	5	6	14	16
9	江津市	○	○	1	1	4	4	8	8
10	川本町		○	0	1	0	1	0	1
11	美郷町	○	○	1	1	2	2	2	2
12	邑南町	○	○	2	2	3	3	8	8
13	益田市	○	○	16	15	12	12	17	17
14	津和野町	○	○	2	2	2	2	5	5
15	吉賀町	○	○	1	1	4	4	5	5
16	海士町	○	○	1	1	1	1	2	2
17	西ノ島町			0	0	0	0	0	0
18	知夫村	○	○	1	1	1	1	1	1
19	隠岐の島町	○	○	1	1	4	4	7	7
	県合計	14	15	64	65	65	68	146	149
	県内公立学校総数					99	99	221	215
	対象校の全学校数に占める割合					65.7%	68.7%	66.1%	69.3%

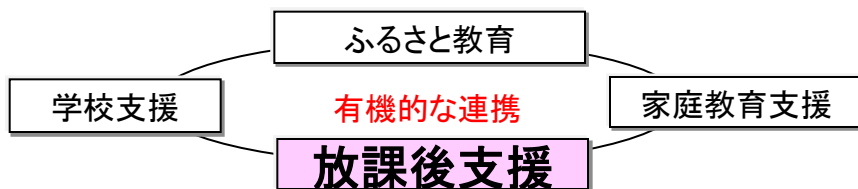
※平成26年度の数値は平成26年度仮申請書から転記。

※県小学校数・中学校数は、「学校基本調査」から公立校(分校を含む)数を転記。

# 放課後支援

子どもたちの安心安全な活動拠点を確保し、様々な学びを支援するだけでなく、地域住民の生涯学習・自己実現に資すると共に、活動を通じて地域のつながり・絆を強化し、地域の教育力の向上を図る。

## 結集！しまねの子育て協働プロジェクト



## 放課後子ども教室

(学校の余裕教室、体育館、グラウンド、公民館等を活用して様々な活動を実施)

### コーディネーター

(活動の企画、地域との連絡・調整)

### 教育活動推進員

(学習や活動のプログラムを中心的に実施)

### 教育活動サポーター

(プログラムのサポートや安全管理)

### 【活動の例】

○学習活動  
宿題の見守り・指導  
読み聞かせ

○体験活動  
工作・実験教室  
料理教室  
スポーツ・文化活動

○交流活動  
自由遊び  
昔遊び  
地域行事への参加

○その他  
職場体験・見学など

## 放課後児童クラブ (厚生労働省)

## 放課後子どもプラン

放課後児童クラブの子どもが放課後子ども教室の活動に参加するなど、連携して実施

学校(学校支援地域本部)・  
公民館・図書館など

活動場所の提供や  
学習・体験プログラムの共有など様々な形で連携・協力

参画

地域の実情に応じた組織や仕組みづくり

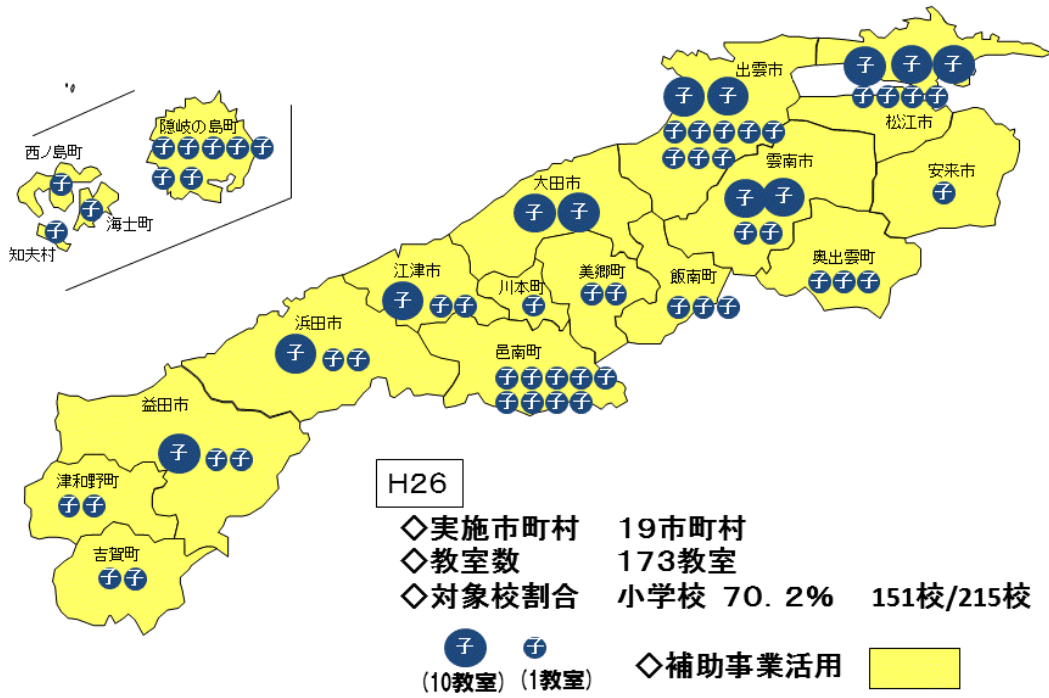
参画

## 地域住民等

地域住民や児童生徒の保護者、学生、社会教育団体、NPO、企業など  
地域全体で活動に参画・協力



# 平成26年度放課後支援事業実施予定



放課後子ども教室・放課後児童クラブ 市町村別実施状況

(H26年3月現在)

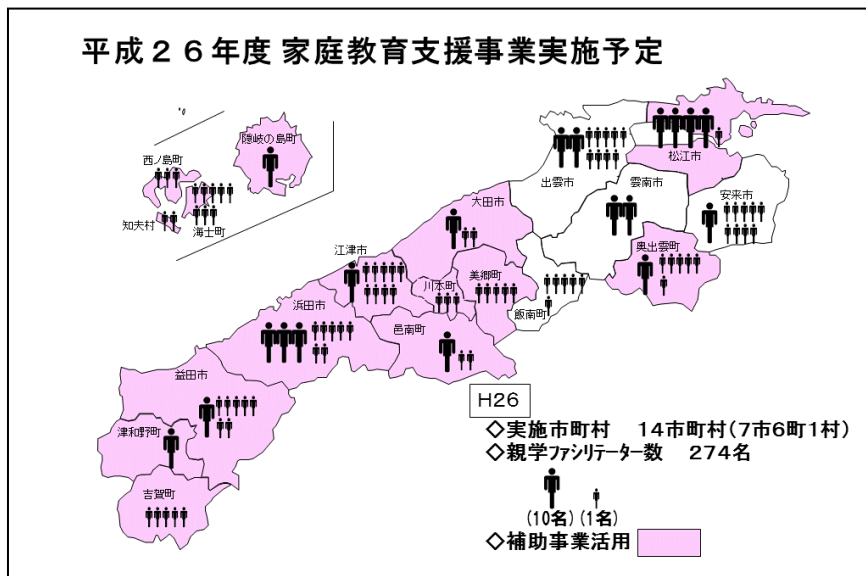
市町村名	放課後子ども教室(A)		放課後児童クラブ(B)		A、Bいずれかを 実施の小学校区数	A、B両方を実施の 小学校区数	A、Bいずれかを実施 及びA、B両方を実施 の小学校区数	未実施校区数	小学校区数
	開設教室数(見込) (放課後子ども教室数)	開設小学校区数	開設クラブ数 (放課後児童クラブ数)	開設小学校区数					
松江市	34	33	59	30	5	29	34	1	35
安来市	1	4	11	11	11	0	11	6	17
出雲市	28	26	43	36	12	25	37	4	41
雲南市	22	16	9	7	9	7	16	1	16
奥出雲町	3	3	7	7	10	0	10	1	11
飯南町	3	3	0	0	2	1	3	1	4
浜田市	12	10	17	16	6	10	16	2	18
大田市	20	11	7	5	7	5	12	4	16
江津市	12	8	7	7	1	7	8	0	8
川本町	1	1	0	0	1	0	1	0	1
美郷町	2	2	0	0	2	0	2	0	2
邑南町	9	8	8	8	0	8	8	0	8
益田市	12	11	12	9	4	8	12	5	17
津和野町	2	2	6	5	4	1	5	0	5
吉賀町	2	2	5	5	4	1	5	0	5
海士町	1	2	1	2	0	2	2	0	2
西ノ島町	1	1	1	1	0	1	1	0	1
知夫村	1	1	0	0	0	1	1	0	1
隠岐の島町	7	7	4	7	0	7	7	0	7
県計	173	151	197	156	78	113	191	25	215
校区対比		70.2%		72.6%	36.3%	52.6%	88.8%	11.6%	

※放課後子ども教室見込み数は、平成26年度仮申請書(各市町村作成)から転記。

※放課後児童クラブ数は厚生労働省放課後健全育成事業実施状況調査(平成25年5月1日現在)をもとにした、平成26年3月現在聞き取り調査による。

# 家庭教育支援

保護者へ学習機会の提供や相談対応及び情報提供を行うことにより、身近な地域においてすべての保護者が安心して家庭教育を行えるよう支援する。



家庭教育支援事業(親学プログラム・親学ファシリテーターの活用)市町村別実施状況

(H26年3月現在)

	親学プログラムを活用した研修会数〔回〕					研修参加者数(延べ)〔人〕				
	H22	H23	H24	H25	計	H22	H23	H24	H25	計
<b>計</b>	<b>51</b>	<b>118</b>	<b>216</b>	<b>189</b>	<b>574</b>	<b>1,478</b>	<b>3,562</b>	<b>6,217</b>	<b>4,499</b>	<b>15,756</b>

H22～24 県による親学ファシリテーター養成開始

H22～24 県による親学ファシリテーターの派遣

H25～ 市町村が実施主体となり、親学プログラム・親学ファシリテーターを活用し研修実施

# 土曜日の教育支援

地域の多様な経験や技能を持つ人材・企業等の豊かな社会資源を活用し、体系的・継続的なプログラムの実施や地域と連携した土曜日の教育支援体制の構築を図る。

## 結集！しまねの子育て協働プロジェクト

土曜日の教育支援

有機的な連携

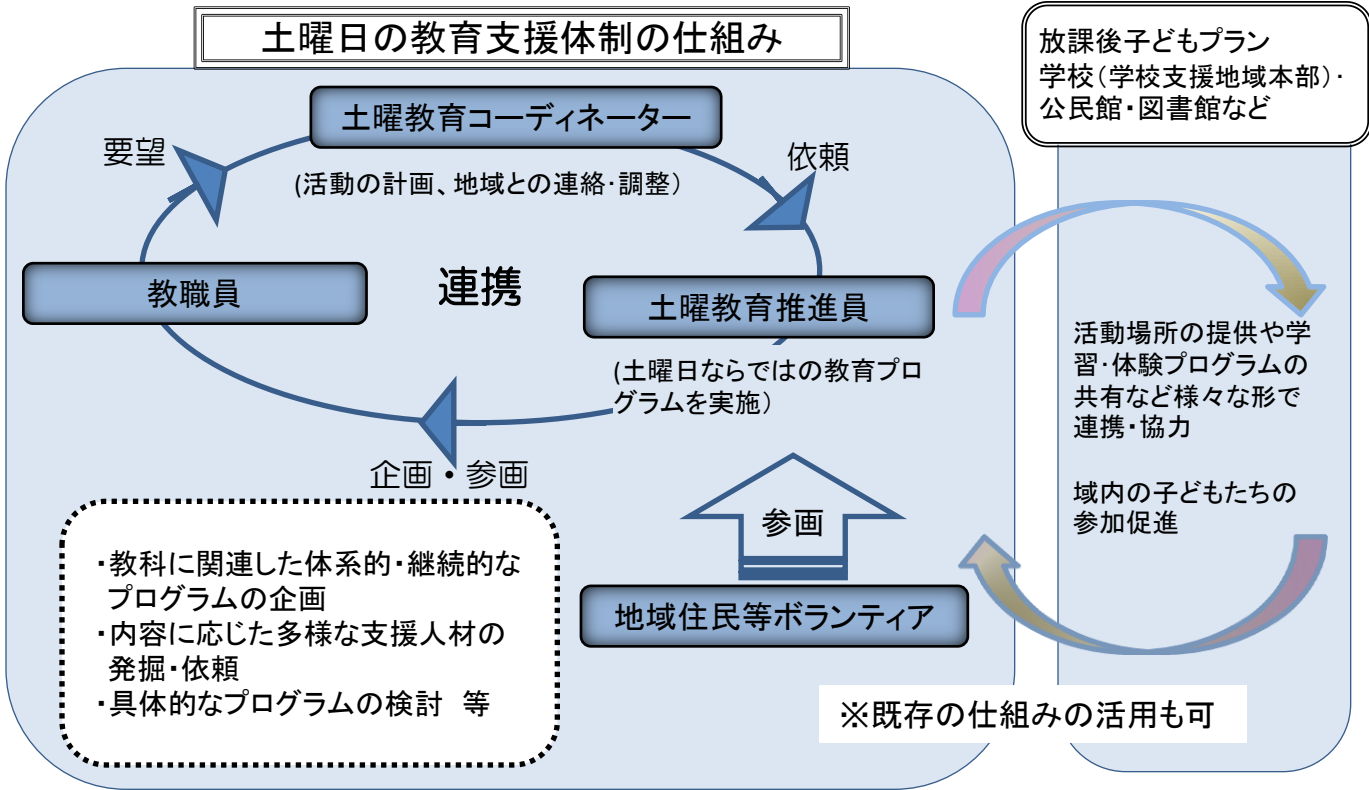
学校支援

ふるさと教育

家庭教育支援

放課後支援

### 土曜日の教育支援体制の仕組み



### 【土曜日ならではのプログラムの実践 教育活動例】

#### 社会人と語る キャリア教育

- ・様々な職種・経験をもつ社会人から学ぶ。
- ・仕事を模擬体験し、将来の自分を考える。

#### 芸術家による 「本物」の文化体験

- ・プロの芸術家による作品制作や鑑賞方法を指導
- ・地域のイベントや学校行事等とタイアップした作品展示の場のセット

#### 在外経験者や 外国人による英語学習

- ・“今日から使える”楽しい英会話
- ・“目指せ英検3級”

#### 学習機会の拡充を図る 「学力向上ゼミ」

- ・エンジニアによる“使える算数・数学講座”
- ・科学実験教室

# 実証！「地域力」醸成プログラム

## 課題意識

“人づくり”の拠点である公民館が培ってきた  
「地域力」醸成のノウハウを結集しよう

### 【社会病理現象】

いじめ、自殺、不登校、児童虐待、学力低下、体力低下、生活リズムの乱れ、引きこもり、社会体験の不足など

地域教育力が低下していると認識している人の割合：55.6% 低下している要因……個人主義が浸透しているため：56.1%

(出典)「地域の教育力に関する実態調査」(平成18年2月 文科省)

- 閉塞感打破への期待感
- 広域化した地域の自立に向けた動き
- 子どもの教育をめぐる「社会病理現象」
- 地域の大人が子どもの教育に関わっていく兆し

公民館には、「地域力」を醸成するソフトウェアがある

モデル事業による実証

大人世代を巻き込む！

## 実証事業

### 【趣旨】

“人づくり”の拠点である公民館が培ってきた「地域力」醸成のノウハウ(=地域の課題を掘り下げ、その解決に向けた学習・実践活動に大人世代を巻き込んでいく仕組み)をモデル公民館を選定して実証することにより、「地域力」の重要性について世論喚起を図る。

### 【事業内容】

- モデル公民館の選定 [平成19～24年度]…76か所(128館)
- 選定方法
  - ・島根県公民館連絡協議会に「モデル公民館選定委員会」を設置
  - ・選定委員会は、学識経験者、公民館運営に造詣の深い者などで構成
  - ・県内の公民館が応募した企画提案を審査するため、公開でプレゼンテーション大会を開催
- 事業費の助成  
300千円～800千円の事業費を3か年助成
- 情報発信  
モデル公民館の選定から実証事業・成果検証に至るプロセスを情報発信し、世論喚起を図る
- 部局連携  
他部局と連携し、「一般枠」「子育て支援枠」「中山間地域実践枠」「婚活枠」「高齢者枠」「地域の歴史・文化枠」「国際枠」「中山間地域農業枠」を実施

### 公民館活動に光をあてる意義

- 住民主体の学習・実践活動に結びつくことで、息の長い取り組みにつながる。→大人の意識改革
- 熱意ある住民・NPO法人等と公民館との接点を拡大し、継続的な人材交流が生まれる。
- 地域の課題が深く掘り下げられ、奇をてらわない実効性のある取り組みになる。

「地域力」醸成の気運 → 地域の元気を取り戻す

## 実証！「地域力」醸成プログラム

### 公民館活動 = 地域の「ひと・もの・こと」を結集するソフトウェア

- 「地域力」醸成のノウハウ(=地域の課題を掘り下げ、その解決に向けた学習・実践活動に多くの地域住民を巻き込んでいく仕組み)を、共有化し普及・活用する
- 学校教育と社会教育との連携による生涯にわたる「切れ目ない教育活動」を実施
- 若者の地域活動への参画を促す

#### モデル公民館訪問研修（県内2か所程度）

- ◇ 優れた取組をしているモデル公民館を実際に訪ね、直接関係者から地域力向上に公民館が果たした役割やさまざまなノウハウについて習得する。
  - モデル公民館を訪ねて様々なノウハウを習得
  - 県内2か所で実施
  - 各公民館でプレゼンテーション、実地見学、熟議等

#### 「地域力」醸成塾（県内2か所程度）

- ◇ 公民館が地域力を高めるため、課題を見つけ、その解決に向かい、どのような動き方をすれば企画を立ち上げることができるのか等について議論を行い、社会教育的な手法を学ぶ。
  - 企画プレゼンテーションに参加しなかった公民館等へ関係者が赴き、新たな活動を企画・実施
  - 希望する公民館から地域バランス等を考慮して2か所を選定

#### 若者の地域参画促進事業〔新規〕

- ◇ 若者の地域活動への関心を高め、地域活動への参画を促す取組
  - 大学生が公民館活動・地域活動等の実態調査をし、地域の若者を巻き込んだ公民館事業を企画・提案する。
  - 公民館職員による意見交換会・事業の企画・検討（県内2か所程度）

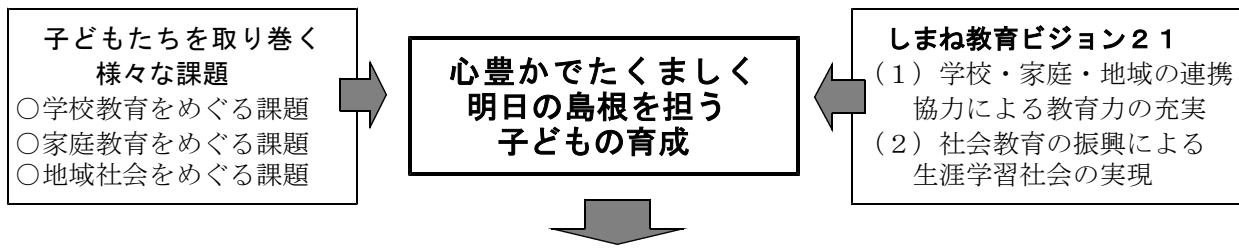
#### 公民館ふるさと教育推進モデル事業〔新規〕

- ◇ 中学校区単位の複数の公民館が連携して実施する。
  - 中学校区の育てたい子ども像を共有して、公民館ふるさと教育を実施
  - 地域住民を対象としたふるさと講座を実施

- ◇モデル公民館のノウハウ・スキルを全県へ波及（地域における取組の活性化）
- ◇公民館を核とした若者を対象とする学習活動、実践活動の充実



# 社会教育主事派遣制度の概要



## 県の社会教育主事を市町村教育委員会へ派遣

以下の項目に重点を置きながら、地域における社会教育及び「学社連携・融合」の推進に関する事務に従事することを目的に、県の社会教育主事（社会教育主事資格を有する教員）を、希望する市町村教育委員会へ派遣する。

### 【重点項目】

- ①学校・家庭・地域住民が連携協力した社会教育及び「学社連携・融合」の推進
- ②地域の「ひと・もの・こと」を生かしたふるさと教育の推進
- ③地域社会における人づくり・地域づくりの推進

### 【職務】

- ◆「学社連携・融合」の理念に基づく学校教育の充実と地域教育力の向上
  - 「学社連携・融合」の推進体制づくりとその運営に係る支援
  - 県教委の重点施策（結集！しまねの子育て協働プロジェクト等）の推進
  - 地域の教育資源「ひと・もの・こと」を生かした教育活動のコーディネートと支援
  - 上記の課題に関する公民館活動との連携の構築
- ◆地域における子どもたちの豊かな体験活動の充実
  - 子どもの教育や子育てを支援する地域の大人の組織づくりと指導者の育成・養成
  - 青少年教育事業の企画、立案、運営
  - 地域の社会教育関係者、PTA、NPO等のネットワークづくり
- ◆市町村の社会教育担当者の養成
  - 公民館主事等社会教育関係者の養成

### 【派遣者数と派遣先】（平成26年度）

- ◆派遣者数 23名
- ◆派遣先市町村数 6市9町1村

### 【派遣期間】

原則として4年以内

## 期待される効果

- ◆「学社連携・融合」による学校教育の充実、地域社会との連携強化
  - 開かれた学校づくり、特色ある学校づくりの推進
  - 地域をあげて学校を支援する気運の醸成 など
- ◆学校・家庭・地域が一体となった地域ぐるみの教育の推進
  - ふるさとに愛着と誇りをもつ心豊かな子どもの育成
  - 地域の教育力の向上
  - 家庭の教育力の向上 など
- ◆地域の大人や高齢者を対象とする社会教育の推進
  - 地域の自立に向けた人づくり・地域づくりの推進
  - 地域の課題解決に向けた幅広い学習・実践活動の推進 など

# 社会教育主事派遣人数の推移

事務所	市町村名	年	→ 地域教育コーディネーター(市町村負担1/2) ←																→ 派遣社会教育主事 (市1/2、町村1/4)						市町村名
			1998 H10	1999 H11	2000 H12	2001 H13	2002 H14	2003 H15	2004 H16	2005 H17	2006 H18	2007 H19	2008 H20	2009 H21	2010 H22	2011 H23	2012 H24	2013 H25	2014 H26						
松江	松江市	松江市		1	1	1	1	1	1											松江市					
		鹿島町	1	1	1	1	1	1																	
		島根町	0.5																						
		美保関町	1	1	1																				
		八雲村	1	1	1	1	1	1	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4							
		玉湯町	1	1	1	1	1	1																	
		宍道町	0.5	1	1	1																			
		八束町		1	1	1	1	1	1																
松江	東出雲町	東出雲町	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1				松江						
	安来市	安来市																							
出雲	出雲市	出雲市																	出雲市						
		平田市	1																						
		佐田町	1	1	1	1	1	1	3	2	2														
		多伎町	1	1	1	1	1	1																	
		湖陵町	1	1	1	1	1	1																	
		大社町	1	1	1	1	1	1																	
	出雲	雲南市	大東町	1																雲南市					
		加茂町	1	1	1	1	1	1																	
		木次町					1	1	1	3	2	2	2	2	2	2	2	2							
		三刀屋町		1	1	1																			
		吉田村	1	1	1	1	1	1																	
		掛合町	1	1	1	1	1	1																	
出雲	奥出雲町	仁多町												1	1	1	1	1	奥出雲町						
	横田町	1																							
出雲	飯南町	頓原町										1							飯南町						
	赤来町	1	1	1	1	1	1					1	1	1	1	1	1								
浜田	大田市	大田市				1	1	1	1											大田市					
		温泉津町		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1							
		仁摩町																							
	浜田市	浜田市	0.5	1	1	1	1	1	1											浜田市					
		金城町	0.5					1	1	1															
		旭町	1	1	1	1	1	1	1	4	4	4	4	3	3	3	2	2	2						
		弥栄村		1	1	1	1	1	1																
	浜田	江津市	0.5	1	1	1	1	1	1		1	1	1							江津市					
		桜江町	1																						
	浜田	川本町	川本町	1	1	1	1	1	1	1	1							1	1	1	川本町				
		美郷町	邑智町	1	1	1	1	1	1									1	1	1					
			大和村	1																					
邑南町		羽須美村	0.5	1	1	1	1	1	1											邑南町					
		瑞穂町	0.5																						
		石見町				1	1	1	1																
益田	益田市	益田市		1	1	1	1	1	1											益田市					
		美都町								1	1	1	1	1	1	1	1	2							
	津和野町	津和野町		1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	津和野町					
		日原町	0.5					1	1																
		柿木村							1	1															
益田	吉賀町	六日市町	0.5					1	1					1	1	1	1	1	吉賀町						
隠岐	海士町	海士町	1	1	1	1	1	1				1	2	2	2	2	2	2	海士町						
	西ノ島町	西ノ島町	0.5												1	1	1	1	西ノ島町						
		知夫村	0.5	1	1										1	1	1	1	1	知夫村					
	隠岐の島町	隠岐の島町	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	隠岐の島町					
派遣者数			30	32	32	32	29	32	32	25	21	19	18	19	21	22	22	22	23						
市			3	4	4	5	5	5	5	6	7	7	6	6	6	6	6	6	6						
町村			32	27	27	26	23	26	26	6	5	4	5	6	8	9	10	10	10						
			35	31	31	31	28	31	31	12	12	11	11	12	14	15	16	16	16						

# ふるさと教育を推進する人材の育成（社会教育主事の資格取得）

★全ての公立小中学校に1名以上の有資格者配置をめざし、ふるさと教育を中心とした学校・家庭・地域が一体となった教育推進の体制を強化する。

## 社会教育主事講習

全9単位

社会教育の意義 社会教育の計画と実際 学校・家庭・地域の連携  
教育における現状や現代的課題 教育行政の取組 等

受講

資格取得

## 学校

### ふるさと教育を担当（社会教育主事有資格者）

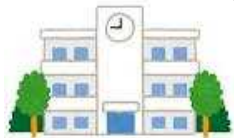
- ◎学校における「ふるさと教育」の推進役
- ◎学校と地域をつなぐキーパーソン
- ◎行政部局、団体等との連携窓口
- ◎学校の取組に関する情報発信
- ◎校内への社会教育にかかる情報発信

#### 学校における「ふるさと教育」の推進

- ①全体計画の作成
- ②年間指導計画の作成
- ③全学年年間35時間以上実施
- ④小小・小中の連携推進

#### ★担当教員に期待される資質・能力

- ・学校・家庭・地域の連携の重要性の認識
- ・開かれた学校づくりの推進役
- ・地域づくりに向けた住民活動への理解
- ・体験活動の推進に係る情報ネットワーク
- ・幅広い人材ネットワーク



指導助言

要請・相談



助言・支援

依頼・相談

### 【県の役割】

- 有資格者の養成（社会教育主事講習への派遣）
- 有資格者への支援（活動紹介、研修機会の充実）
- 配置状況の把握と配置による成果等の調査
- 養成機関（大学）との連携

## 市町村教育委員会



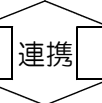
### ふるさと教育の継続的推進

- ①ふるさと教育推進事業実施計画の策定
- ②ふるさと教育推進のためのネットワーク会議の開催
- ③中学校区ふるさと教育推進連絡会議の設置
- ④教職員研修の実施
- ⑤「結集！しまねの子育て協働プロジェクト」との有機的連携
- ⑥ふるさと教育を発展・補充・深化させるための生涯学習・社会教育事業の実施

### 派遣指導主事

#### ふるさと教育のPDCAを指導・助言

- ①担当教員に指導助言、支援
- ②校内職員に指導助言、支援
- ③中学校区の取組に指導助言・支援



連携

### 派遣社会教育主事

#### 地域の支援体制の構築

- ①学校のニーズに基づき担当教員を支援
- ②公民館やコーディネーターへの助言・支援
- ③関係機関・団体との連携（情報提供・収集・相談）

相談 助言・研修支援

## 公民館（コーディネーター）

学校における「ふるさと教育」の支援と連携

地域における「ふるさと教育」の推進

中学校区の公民館の連携体制づくり



支援・協力

実践の場の提供

成果の発表

企業

社会教育関係団体

サークル

ボランティア団体

農業・漁業関係者

社会教育施設

文化遺産

伝統行事

地域行事



地域の

ひと

もの

こと



公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム

【いじめや児童虐待予防に対応した親学プログラムの開発と地域人材の育成】

東部・西部社会教育研修センター

いじめや児童虐待予防という子育てに関わる喫緊の社会的課題に対処するため、県および市町村関係課、地域人材、地域団体等が連携・協働し、いじめや児童虐待の未然予防を図る親学プログラムの開発とプログラムを進行できる地域人材の育成を図る。

学習プログラムの開発【平成 25・26・27 年度】

「いじめや児童虐待予防に対応した『親学プログラム』の開発」

- 関係各機関と連携した学習プログラムの開発
- プログラムのモデル実施・検証

地域人材の育成【平成 26・27 年度】

「いじめや児童虐待予防に対応した親学プログラムを進行できる『地域人材の育成』」

- 養成講座の実施
- 県内 200 名の地域人材（親学ファシリテーター）の育成

プログラムの内容

いじめや児童虐待はどの家庭にも起こりうる問題であるため、すべての子育て層を対象にした学習プログラムを開発。

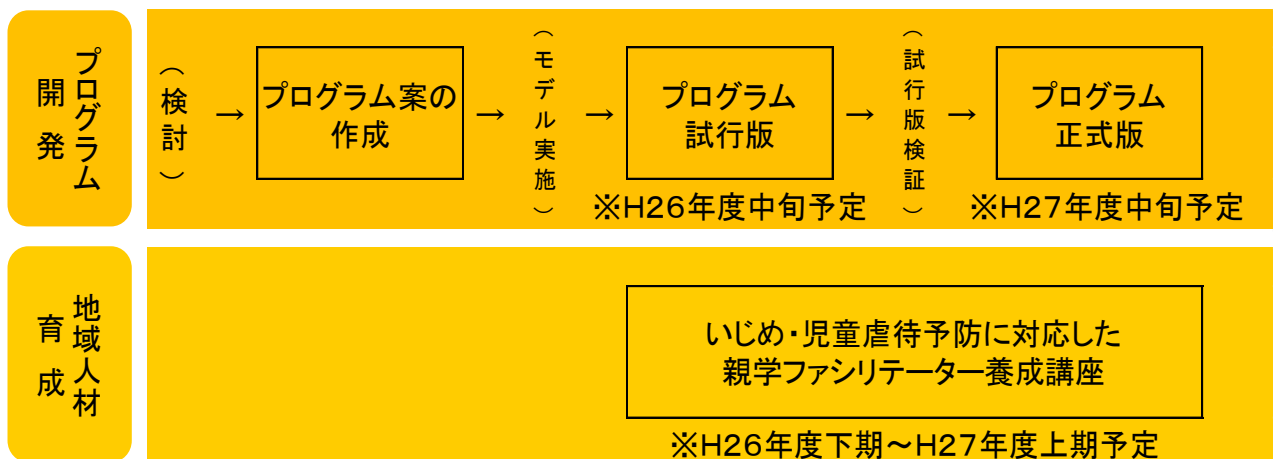
- 親の社会的役割・公共性について考えるプログラム
- さまざまなつながりを作るプログラム（親同士・親と地域・親と学校等）
- いじめや児童虐待、その他人権をテーマとして扱うプログラム

スケジュール

<平成25年度>

<平成26年度>

<平成27年度>



## 公民館等を中心とした社会教育活性化プログラム

### 【絵本でつながる親子の絆、地域の絆】

県立図書館

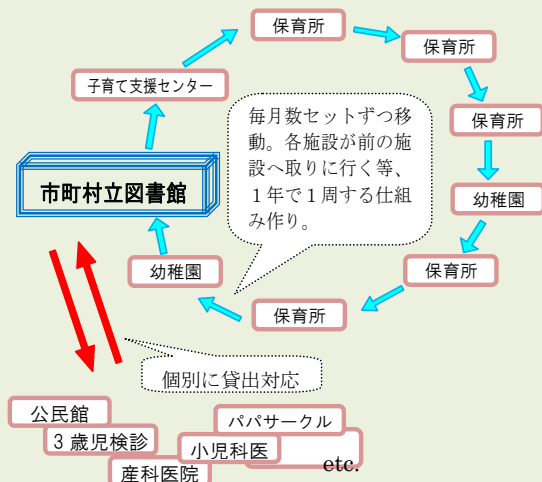
未就学児の読書習慣の定着をめざし、「親世代の読書への理解」と「ボランティアによる支え」を効果的に進めるため、読み聞かせによる家族や親子の絆を深める機会の充実と、男性の主体的な参画を促す。

目指すところは・・・ **家庭で、子どもが親に絵本の読み聞かせをせがみ、親が子どもに絵本の読み聞かせをすること**

#### 読書環境の整備 【平成 25・26・27 年度】

##### 「ねえ！この本読んで。」プロジェクト

- 「しまね子育て絵本」1,050冊の活用  
〈市町村における流れの例〉



#### 親への普及啓発 【平成 25・26・27 年度】

##### 「読みメン」プロジェクト

読み聞かせで何を読んで良いかわからない、とりわけ父親への読み聞かせ体験の機会を提供。

- 公民館、育児サークル等で、乳幼児を持つ親、祖父母に向け、啓発活動を実施
- 「読みメン手帳」の作成、活用

#### プロジェクトを支える人への支援 【平成 25・26・27 年度】

##### 地域の子ども読書応援隊

- ・親子読書を県内全域に広げる親子読書アドバイザーの支援
- ・各地で活動しているボランティアのネットワーク化を図り、資質向上を図る。

- 親子読書を推奨する親子読書アドバイザーの第2次養成
- 親子読書アドバイザーステップアップ講座
- 親子読書アドバイザーの活用促進
- 研修会の開催
- 各地域で活動するボランティアのネットワーク化（全体交流のつどいの開催）

2年目  
新規

#### 【平成 26・27 年度】

特別な支援の必要な子どもたちへの  
読書活動の支援

##### バリアフリー図書活用

##### ボランティア講座

- ①特別な支援の必要な子どもへの関わり方
- ②バリアフリー図書の活用事例と演習

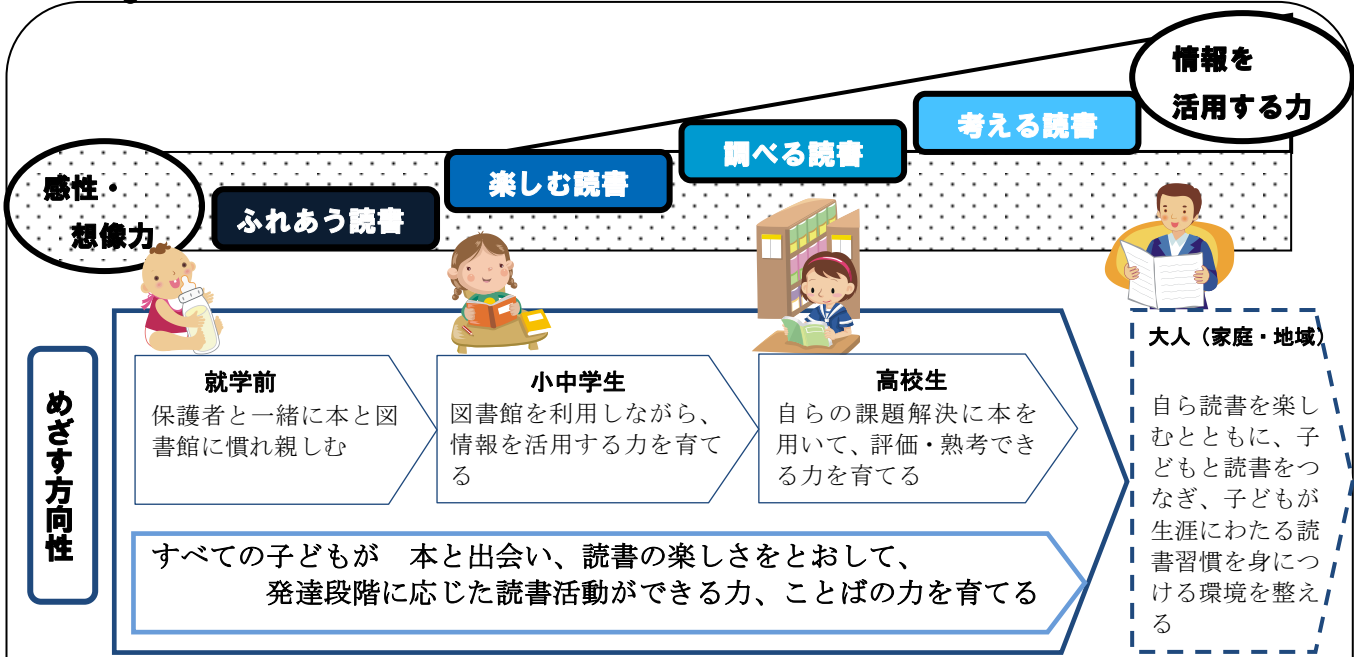
# 「子ども読書県しまね」

子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの

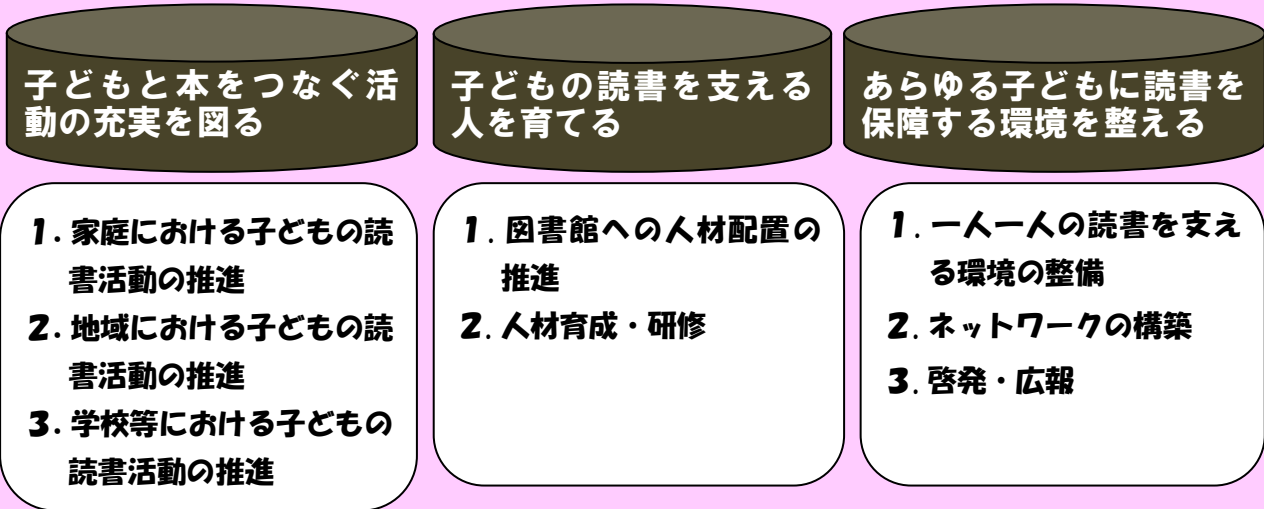
(子どもの読書活動の推進に関する法律 第2条より)



## 本に親しみ本から学び より豊かに生きる力を育てる



### 基本目標



# 子ども用バリアフリー図書整備事業



## 【期待される効果】

- 子どもたちと本との出会いの機会の充実
- 読書ボランティア団体と障がいのある方との連携
- 島根県オリジナル本の活用・促進
- 人権意識の啓発、子どもたちの人権学習の理解促進



## ★子ども用バリアフリー図書整備★

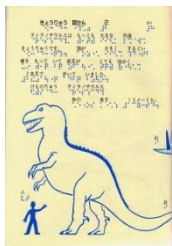
県立図書館・西部読書普及センターに子ども用バリアフリー図書を整備



**大型絵本**  
(本が大きくなっている)



**録音図書**  
(音声がついている)



**点字本**  
ユニバーサルデザイン絵本  
(点字や絵文字がついている)



島根県に関する本を点字・録音図書化



**布絵本**  
(絵が触れる)

## ★バリアフリー図書の普及★

読書ボランティア団体や学校での活用を促すとともに、住民への周知を図る

### 啓発イベント

読みメン  
パーク

本へ  
飛び込め

子ども読書  
フェスティ  
バル

etc.

・バリアフリー図書の紹介・活用

・布絵本の地元での作成へのきっかけづくり等

### バリアフリー図書活用研修

#### 【対象】

学校司書等  
親子読書アドバイザー  
ボランティア

#### 【内容】

- ・特別な支援の必要な児童・生徒の理解
- ・バリアフリー図書の活用事例と演習



## 平成26年度 しまねのふるまい推進プロジェクトに関わる取組

社会教育課

### ◇しまねのふるまい推進プロジェクト（H25～H27）のねらい ふるまいの定着

- ・子どもとその保護者、さらにすべての世代へのふるまいの定着
- ・家庭教育及び子育ての支援の充実

#### 親学プログラムの普及・定着

各市町村におけるふるまいの定着や家庭教育支援において、親学プログラムや親学ファシリテーター活用が図られるための支援を行う。

##### <事業内容>

- ① 親学プログラム市町村支援
  - ・市町村が行う親学プログラムの普及・定着のための経費支援
  - ・市町村への指導・助言
- ② 親学プログラムの広報・啓発
  - ・親学プログラム活用事例の周知・活用案の提案等
  - ・現行プログラムの改良や活用拡大の検討

#### 公民館ふるまい推進事業

親世代をはじめとする大人のふるまいの意識を高め、それらを地域全体に広げるために、親子でのふるまいに関する取組を推進していきます。

##### <事業内容>

- ① 保護者を対象とした、ふるまいの向上・定着を図る活動
- ② 子どもと若い親世代が、より多くの人と関わりながら、ふるまいの向上・定着を図る活動
- ③ 地域の若い親世代を支え、家庭や地域におけるふるまいの向上・定着を図る活動

※ 1公民館あたり助成金を5万円程度とする。【40公民館程度】（上限：10万円）  
本事業の助成金に加え、自主財源を合わせた事業実施も可能とする。

##### <事業例>

- ・親子参加型のワークショップ
- ・ふるまいをテーマにした親学講座
- ・親子を対象に、学校や団体等と連携した事業 など



# 学校教育における長期宿泊体験活動の推進

## 子どもたちをめぐる現状と課題

### ★現 状

- いじめ、ひきこもり、不登校など悩みを抱える児童生徒の割合が依然として高い。
- 人間関係形成能力、コミュニケーション能力、規範意識等の低下
- 自分に自信がもてない、将来の夢が持てない子どもの割合が高い
  - ◆本県における不登校児童生徒（H24 学校基本調査）
  - 小学校 172名 ※ 1,000人あたりの不登校児童生徒の割合
  - 中学校 567名 1.33人（全国1.11人）

### ★原 因（予防的に取り組むべき課題）

- 直接体験の不足（汗して働く体験、自然体験、生活体験）
- 生活習慣の乱れ（夜更かし、ネット・ゲーム依存、朝食欠食など）
- 希薄な人間関係（家庭・地域での大人との関わり、仲間との関わりが少ない）



## 直接体験の機会と場の提供

- ★自分でやり遂げた達成感を味わう（充実感、達成感、自信）
- ★仲間と協力してやり遂げた達成感を味わう（連帯感、達成感）
- ★責任を果たし、自分が役に立った実感をもつ（責任感、自己有用感、自尊感情）
- ★目標に向け、苦しいことも我慢してする・人と合わせる（忍耐力、協調性）
- ★共同生活のルールを守りながら、衣食住などについて自分のことは自分でする
- ★本物の自然や文化に触れ、価値を実感する

## 青少年教育施設の活用



## 国の調査報告から

- ◇体験は、発達の時期によって必要な体験がある
  - ◇体験によって、「生きる力」につながる資質や能力の向上が期待できる。
    - 自尊感情 共生感 意欲・関心 規範意識
    - 職業意識 人間関係能力 文化的作法・教養 等
  - ◇体験の豊かな子どもほど、学力が高い  
// 読書量が多い ほか
- H22.10 国立青少年教育振興機構調査報告

学校における体験活動推進のため、家庭や地域の理解を求めながら、青少年教育施設、公民館等において意図的・計画的、継続的に実施していく必要がある

## 長期の宿泊体験活動の必要性

- ・生活体験ができる(繰り返しの機会がある)
- ・能動的動きまで、待つ時間的ゆとりがある
- ・親から離れ、自立の機会となる
- ・新たな仲間づくりのきっかけとなる

1泊2日

2泊3日

3泊4日以上へ

### (国立三瓶青少年交流の家、県立少年自然の家、県立青少年の家)

- ◎県内の子どもたちが身近な自然に親しんだり、人と力を合わせてできた喜びを感じたり、挨拶や整理整頓など基本的な生活習慣を身につけたりする直接体験の機会と場を積極的に提供
- ◎子どもたちの体験活動の推進により課題の解決を図るため、より長期にわたる集団宿泊体験活動の取り組みを促すとともに、施設職員による相談・支援機能を強化

## 地域と中学校の文化部活動支援事業

### 【目的】

- ・発表の機会の少ない文化部活動の発表の場の提供
- ・学校・家庭・地域の理解と関心の高揚

「中学生の文化祭～アートフェスティバル」の開催  
H14年度～H24年度 全11回開催

地域との連携協力を図ることで、地域での関心をも高める

当初の目的を  
生かした  
改善

中学生の企画による地域に即した、発表の場・回数の拡大

## 地域と中学校の文化部活動支援事業

【ねらい】 中学生の文化部活動の活性化

家庭・地域の理解と関心を高揚

ふるさとを愛する心・誇りに思う心を育む

【対象】 中学校文化部

【内容】 地域において以下の活動を実施する場合の活動費、1校あたり上限 50 千円

50 千円×20校支援

○地域貢献活動（福祉施設への訪問活動、地域活動への参画など）

○異世代間交流活動（保・幼への指導・交流、公民館サークルとの連携など）

### 期待される効果

中学生の  
自尊感情の醸成

中学校と地域における  
文化部活動の活性化

地域住民の  
中学生への理解促進

【学校】 ふるさと教育担当教員

【地域】 学校支援コーディネーター

連携・協力による

文化部活動の活性化